

第 3 期中期目標期間における評価の推移

	第 2 期	R 1	R 2	R 3	第 3 期 終了時見込
全体評価	B	B	B	B	B
第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上					
1 市民病院としての役割の明確化	B	A	A	A	A
2 高度な総合的医療の推進	A	A	A	A	A
3 利用者本位の医療サービスの提供	B	B	B	B	B
4 地域とともに推進する医療の提供	A	A	A	A	A
5 総合力による医療の提供	B	B	B	B	B
6 医療の質の向上	B	B	A	B	B
第 2 業務運営の改善及び効率化					
1 医療職が集まり成長する人材マネジメント	B	B	B	B	B
2 経営管理機能の充実	B	B	B	A	B
3 構造改革の推進	B	B	B	B	B
第 3 財務内容の改善					
1 業績管理の徹底	B	B	B	B	B
2 安定した経営基盤の確立	B	B	B	B	B

- S 中期目標・中期計画の達成に向けて計画を大幅に上回って進んでいる
A 中期目標・中期計画の達成に向けて計画をやや上回って進んでいる
B 中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおりに進んでいる
C 中期目標・中期計画の達成にはやや遅れている
D 中期目標・中期計画の達成には大幅に遅れている又は重大な改善すべき事項がある

内 容 項 目	令和3事業年度							第3期中期目標期間見込							参 考					
	法人 自己 評価	評価委員会評価					評価 結果	令和3事業年度評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	法人 自己 評価	評価委員会評価					評価 結果	第3期中期目標岐南見込評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	評価結果			
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			第2期	R1	R2	R3
1 市民病院としての役割の明確化	—	—	—	—	—	—	A		—	—	—	—	—	—	A		B	A	A	A
(1) 医療機能の明確化	4	4	4	4	4	4	5	<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療を中心に入院から在宅までの医療機能を切れ目なく行っており、COVID-19診療にも適正に対処できている。 コロナ禍の中、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟の稼働は昨年度並みで維持し、ポリファーマシー対策にも取り組みはじめ、訪問看護ステーションの活用も進めており、年度計画を上回ると判断した。 本事業年度内での問題では、COVID-19対応ができたかによると考えている。対策として病棟転用にて地域のCOVID-19対応はできており、特に重症患者専用病床を設けられている。 	4	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 診療体制の充実が図られ、医師数も目標に届いた。全24診療科が特色ある診療を実施、急性期医療を中心に在宅から入院、そして在宅へと回復期機能にも一定の軸足を置いて計画的に整備を進めている。COVID-19重点医療機関としての機能を十分に発揮している。今後の病床運用について患者の動向を見ながら検討が必要である。 市民に対する一般的な医療の提供を行いつつ、COVID-19に対しても適切に対応できており、地域の中核病院としての責任を果たしている。 	4	4	4	5
(2) 地域包括ケアシステムにおける機能の強化	4	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から続きCOVID-19への対応は多大な成果を上げているが、救急医療との両立する医療体制が今後求められるのではないかと。 「地域医療構想の進捗を見据えた今後の病院体制のあり方検討部会」を立ち上げ、報告書をまとめ上げた。 	4	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療を担うだけでなく地域医療・介護支援を一貫して推進している。 急性期医療を脱した患者の在宅への移行を地域包括ケア病棟や訪問看護ステーションが担い成果を上げている。明石在宅医療連携システムへの登録医療機関が、12医療機関から72医療機関に増え、レスパイト入院にも対応している。 	3	4	4	4
(3) 災害及び重大な感染症発生時への対応	5	5	5	5	5	5	5	<p>「あり方検討部会」を開催し、将来性や方向性を報告書にまとめた取り組みについては、第1-(1)「医療機能の明確化」の項目において評価。</p>	5	5	5	5	5	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から続きCOVID-19への対応は多大な成果を上げているが、救急医療との両立する医療体制が今後求められるのではないかと。 COVID-19対応だけでなく、大規模災害発生時の対応も検討している点を評価。 	3	4	5	5
2 高度な総合的医療の推進	—	—	—	—	—	—	A		—	—	—	—	—	A		A	A	A	A	
(1) 急性期医療を中心とした総合的な医療の提供	4	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療を中心としながら、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟も運営されている公的病院で、これまで患者の病状から判断した上手な運用をしている。また、総合内科医を中心に、患者のトリアージが行われており、専門医のいる科とのチーム医療体制も整っている。 感染症患者でベッドが満床になったために、一般救急の受け入れが不可能な状況も一時期あり、患者受け入れが減少しているが、止むを得ないと考える。内科系、外科系、小児救急に対応できる体制維持もある。 	4	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 急性期を中心としながらも回復期や在宅支援も加えて総合的な医療が提供できている。 診療体制が充実してきたことに加えて、総合内科を中心とした内科系救急体制、COVID-19患者対応、内視鏡センターの立ち上げと肝臓分野、消化管分野の診療、外科系では胸腔鏡、腹腔鏡下手術の増加、全身麻酔の増加、整形外科や耳鼻科による内視鏡的手術などが実施されている。 	4	4	4	4
(2) 救急医療の推進	3	3	3	3	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の流行は今後も予想されるものであり、救急医療との可能な限りの両立が求められる。 従来の政策医療に加えて、市と連携してCOVID-19ワクチン接種を積極的に行うなど政策医療に寄与した。 あかしユニバーサル歯科診療所と連携し、昨年度より実績を上げ、ワクチン接種にも人材派遣をしている点は、年度計画を上回ると判断した。 	3	3	3	3	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 内科系、外科系の24時間救急診療体制を継続しているが、COVID-19患者の受け入れに対応するために一般病床の減少やICUの使用制限などの事態により、目標達成が危ぶまれる。今後のCOVID-19患者の動向により診療体制の再構築が必要と考える。 感染症の流行は今後も予想されるものであり、救急医療との可能な限りの両立が求められる。 	4	3	3	3
(3) 市と連携した政策医療の充実	4	4	4	4	4	4	4		4	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19対応にて救急医療は制限されているが、少ない病床を十分に利用しながら適正な努力をしている。 予防検診や認知症検診を継続し、ユニバーサル歯科診療所を軸にして歯科医療機関と連携を強化し、通常の接種会場では対応できない障がい者と付き添い者のCOVID-19ワクチン接種を、市民病院において実施した。 	3	4	4	4

内 容 項 目	令和3事業年度							第3期中期目標期間見込							参 考					
	法人 自己 評価	評価委員会評価					評価 結果	令和3事業年度評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	法人 自己 評価	評価委員会評価					評価 結果	第3期中期目標期間見込評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	評価結果			
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			第2期	R1	R2	R3
市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	3	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—	—	—	—	B	—	B	B	B
	(1) 医療における信頼と納得の実現	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	(2) 利用者本位のサービスの向上	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	3	3	4	4	4
	4	—	—	—	—	—	—	A	—	—	—	—	—	—	—	A	—	A	A	A
	(1) 地域医療支援病院としての役割の強化	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
(2) 地域社会や地域の諸団体との交流	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	

内 容 項 目	令和3事業年度							第3期中期目標期間見込							参 考						
	法人自己評価	評価委員会評価					評価結果	令和3事業年度評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	法人自己評価	評価委員会評価					評価結果	第3期中期目標期間見込評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	評価結果				
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			第2期	R1	R2	R3	
5 総合力による医療の提供	—	—	—	—	—	—	B		—	—	—	—	—	—	—	B	B	B	B		
(1) チーム医療と院内連携の推進	3	3	3	3	3	3	3	・安全、効果的医療推進のため、管理部門とも連携が行われていることから一定の成果がある。 ・一定の努力は続けられているが、チーム医療は「高度な総合的医療」の基盤になるだけに、更なる努力を期待したい。 ・診療情報、医療情報などの管理分析をし、幹部職員をはじめとしての情報提供と共有が具体的にどのような効果をもたらしているの判らず、年度計画通りと判断した。	3	3	3	3	3	3	3	3	・多職種が専門性を発揮してチーム医療、院内連携が図られている。 ・臨床では多職種連携によるチーム医療を行い、質の高い治療を推し進めている。また、委員会や合同カンファレンス、NSTやICTでもチーム連携を行い、病棟には管理栄養士や薬剤師の配置を行っている。 ・管理的側面の情報の一元化は進んでいるが、チーム医療に必要な医療提供場面で一元化も重要と思われる。	4	3	3	3
(2) 情報の一元化と共有	4	3	4	4	3	4	4	・管理的情報の一元化は進んでいるが、より現場(医療提供)寄りの情報の一元化の取り組みが見えてこない。 「あり方検討部会」を開催し、将来性や方向性を報告書にまとめた取り組みについては、第1-(1)「医療機能の明確化」の項目において評価。	4	3	4	4	3	4	3	・安全、効果的医療推進のため、管理部門とも連携が行われていることから一定の成果がある。 ・診療情報を一元化して、DPCデータの分析やベンチマークによる他院との分析を行い、診療単価の増加が得られている。	3	3	3	4	
6 医療の質の向上	—	—	—	—	—	—	B		—	—	—	—	—	—	B	B	B	A	B		
(1) 医療安全や感染防止対策の徹底	4	4	4	4	4	4	4	・インシデントカンファレンスを毎日実施し、改善策が必要な部署で共有。既読管理により、報告書管理加算の算定や、静脈血栓症予防に取り組み実践している。 ・電子カルテリプレイス時に導入した総合診療支援プラットフォームを活用し、放射線・病理などの検査レポートの見落とし防止の仕組みが、評価されており、年度計画を上回ると判断した。 ・ISO9001の更新審査で検出された事項14項目に是正計画を立案し、改善に取り組んでいるとしているが、具体的に何をどのように取り組んでいるのか実態が不明瞭なので、年度計画通りであると判断した。	4	4	4	4	4	4	4	4	・多職種の構成員による医療安全管理室によるインシデントカンファレンス実施を実施し、職員の危機管理意識が向上した。COVID-19重点医療機関として地域医療に貢献した。 ・インシデントを収集し、多職種間でのデータの共有と再発防止のための分析を行い、医療安全を推し進めている。電子カルテ導入時には新しいシステムを導入して活用し、院外に対してもあかし医療安全ネットワークと継続して活動を行っている。COVID-19では適正な予防対策を行って院内感染を控えながら、地域のCOVID-19患者の対応ができています。	4	4	4	4
(2) 質の向上のための取組の強化	3	3	3	3	3	3	3	・クリニカルインジケータの経年的な分析を行い医療の質向上に努めている。 ・内部統制など体制は整えられつつある。 ・国が示す地域医療構想を踏まえ、変化してきた役割を考慮して理念と基本方針の改訂を行った。病院ガバナンスを強化するために外部理事を選任した。	3	3	3	3	3	3	3	3	・ISO9001の認証継続を行い、文書管理や内部監査における品質管理に努めている。 ・多職種で構成される品質管理室を設置し、俯瞰的な視点から評価、職員の改善意識を醸成した。 ・外部理事の選任を進めるなど改革の体制は整えつつある。内部統制は委員会組織ではなく常設の組織とすることが望ましい。労働生産性の向上により人材に余裕が出来ることを期待する。内部通報が0件というのは窓口が機能しているのか気がかり。	3	3	4	3
(3) コンプライアンス(法令・行動規範の遵守)の強化	3	3	3	3	3	3	3	・院内研修会等にて、コンプライアンスに対する意識啓発に努めているが、COVID-19対応にてその活動には制限がかかっていると考える。	3	3	3	3	3	3	3	・法令関係や内部規定の遵守では、積極的な活動はできていないが、改善に対する意欲は感じられる。	2	3	3	3	
1 医療職が集まり成長する人材マネジメント	—	—	—	—	—	—	B		—	—	—	—	—	—	B	B	B	B			
(1) 必要な医療職の確保	3	3	3	3	3	3	3	・医療職については大学人事と密接な関係があり、今後とも良好な関係が続くように努力をお願いしたい。看護職については、色々な工夫をして看護師の確保に努めており、前年度を上回る新卒、既卒看護師の確保に成功し、離職率にも改善がみられる。 ・公立病院出身の医療職は民間でのニーズが高いと聞く。魅力ある人材育成システムを通じてこそ医療職を必要十分に確保出来ることから教育・研修・正当な処遇が今後ますます求められる。	3	3	3	3	3	3	3	3	・院長を中心とした医師確保が中期計画通り進んでおり、他の医療職の確保も計画通りと評価する。 ・公立病院出身の医療職は民間でのニーズが高いと聞く。魅力ある人材育成システムを通じてこそ医療職を必要十分に確保出来ることから教育・研修・正当な処遇が今後ますます求められる。 ・院内教育システムや支援制度を見直し、人材育成を継続して実施している。	3	3	3	3
(2) 魅力ある人材育成システム	3	3	3	3	3	3	3	・医師、看護師、事務職員の人材育成については、計画通りと判断した。医師、看護職以外の医療従事者の人材育成はどのようにしているのか記載があるとよい。	3	3	3	3	3	3	3	・院外の人材養成講座や特定行為看護師が各1名得られている。認定看護師の資格取得支援を行っている。	3	3	3	3	

内容項目	令和3事業年度							第3期中期目標期間見込							参考													
	法人自己評価	評価委員会評価					評価結果	令和3事業年度評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	法人自己評価	評価委員会評価					評価結果	第3期中期目標岐南見込評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	評価結果											
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			第2期	R1	R2	R3								
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのべき措置	2 経営管理機能の充実	—	—	—	—	—	—	A	—	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—	B	B	B	A				
	(1) 役員の責務	3	3	3	3	3	3	3	・理事長はじめ役員は十分な責務を果たしているが、今後は外部理事を含めた全理事の更なる役割発揮が鍵になると思われる。 ・外部理事の良さは「空気を読まない」ことに尽きる。女性理事を増やすなど多様性にも配慮しながら体制の充実を進めるべきである。 ・全般的な管理能力や体制、MBA取得、マネジメント諸活動、管理データの充実など公立病院としてレベルが高くなってきたように見受けられる。	3	3	3	3	3	3	3	・理事長はじめ各役は十分な責務を果たしている。今後は外部理事を含めた全理事の更なる役割発揮が鍵になると思われる。 ・全般的な管理能力や体制、マネジメント諸活動、管理データなど公立病院としてレベルが高くなってきたように見受けられる。 ・プロパー中心の体制が軌道に乗り、医療事務など現場部門および管理部門ともに段階的に能力が向上してきた。	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
	(2) 管理運営体制の充実	3	4	3	3	3	3	4	・BSCの運用が有効に行われていると想定される。 ・プロパー中心の体制が軌道に乗り、医療事務など現場部門および管理部門ともに能力が向上してきた。	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4					
	(3) 事務職の育成の推進	3	4	3	3	3	3	4		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4					
	3 構造改革の推進	—	—	—	—	—	—	B		—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—	B	B	B	B				
	(1) 組織風土の改革	3	3	3	3	3	3	3	・QC的思考に沿った各部署の活動成果報告会の実施や研修会の年3回の実施など、年度計画通りと判断した。 ・人事評価制度導入5年目を迎え、問題点の洗い出しを実施し、改善に取り組んでいるとしているが、実態が不明であるので、年度計画通りと判断した。 ・人事評価制度については道半ばと捉えている。引き続き公正な評価を通じた組織の活性化を期待する。	3	3	3	3	3	3	3	・一定の改革の成果は出ていると考えられる。 ・人事評価制度については道半ばと捉えている。引き続き公正な評価を通じた組織の活性化を期待する。 ・労務の効率化を通じた残業時間の削減が行われている。RPAのさらなる推進と人材の適正配置が求められる。 ・電子カルテの活用、医療機器導入や業務委託による医療職の負担軽減、超過勤務時間の抑制など対応している。	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
(2) 人事評価制度の運用	3	3	3	3	3	3	3	・業務の効率化に取り組んでいることは読み取れるが実態が判らず、超過勤務時間も前年度より抑制できていることから、年度計画通りと判断した。	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3							
(3) 労働生産性の向上	3	3	3	3	3	3	3		3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3								

内 容 項 目	令和3事業年度							第3期中期目標期間見込							参 考						
	法人自己評価	評価委員会評価					評価結果	令和3事業年度評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	法人自己評価	評価委員会評価					評価結果	第3期中期目標岐南見込評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	評価結果				
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			第2期	R1	R2	R3	
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためのべき措置	1 業績管理の徹底	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—		
	(1) 診療実績の向上による収入の確保	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	・COVID-19感染症の影響により病床稼働率が低下したが、補助金や診療報酬の手当によって収入は確保できた。 ・COVID-19への対応を通じた収入の増加により、今後の計画的投資のための資金にも余裕が生まれた。査定率も低位で安定しているものの、未収金の発生率は決して低くない。債権回収のノウハウも必要ではあるが、そもそも未収金を発生させない仕組み作りが急がれる。 ・ベンチマークの活用、費用対効果の分析にて支出抑制に対応している。	・20～21年度はコロナ患者受け入れに伴う補助金や診療報酬の手当によって収入は確保できたが、平時に戻った場合に向けて分析が必要である。 ・救急医療と感染症対策との両立が必要。 施設のあり方、人材配置など今後の収入の確保は図れたと考える。課題を整理する必要がある。	4	3	3	4
	(2) 支出管理などによる経費削減	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	・COVID-19にてこれまでの一般診療は制限されているが、今回のCOVID-19での収入を除外したポストコロナではどのようになるかの試算も検討されている。その判断は難しいが、可能な範囲で予測することは必要である。 ・医療従事者の増加やCOVID-19対応に伴う手当等から人件費が増加したものと考えるが、人に対する投資は重要である。なお、材料費は改善されている。	3	3	3	3	
	(3) 原価計算の活用	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	・原価計算の必要性を含め、費用対効果で検討するとされているが、医療サービスを持続継続とするためには原価計算は必須である。配賦基準はある適度割り切りも必要と思う。	—	3	3	3	
	2 安定した経営基盤の確立	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—		
(1) 収支の改善	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	3	4	3	・COVID-19感染症の受け入れに伴う補助金等で大幅な収支改善になった。 ・新型コロナの影響で短期的な投資計画は難しかったのではないかと。長期については「あり方」は作成できたが「投資計画」はこれからといえる。 ・医療体制のみならずカーボンニュートラルなど非財務情報を中心としたSDGsを意識する議論が今後必要である。	・持続可能な病院経営の第一ステップが完成した第3期中期目標期間だと考えられ、十分に評価出来る。 ・COVID-19にて医療収益は十分ではない。診療単価が上昇しているが、診療報酬上の特例措置等が含まれていると思われるので、ポストコロナではどのようになるかを検討しておく必要がある。	4	3	3	4	
(2) 計画的な投資	4	3	4	4	3	3	3	4	3	4	4	3	3	3	・修学等資金貸与を行っている。あり方検討部会での将来構想を踏まえての計画的な投資が望まれる。	・本中期期間の後半がCOVID-19感染症の影響によって平時における収支と財務の基礎数値が不透明になってしまった。今後の投資計画を策定するために十分な分析が必要になる。 ・老朽化した施設では医療の質や収入を増やすことに対して限界があり、それが医療職など必要な人材確保にも苦勞することとなる。建替議論についてスピードアップを更に図っていくべきである。	3	3	3	3	